



イイタカムシトリスミレ	<i>Pinguicula vulgaris</i> L. var. <i>floribunda</i> S.Watan. et A.Takeda	絶滅危惧 I 類
		タヌキモ科
選定理由	生育地が極限されているうえ、個体数が極度に減少している。	<p>写真(高橋弘)</p> 
形態の特徴	葉はロゼット葉のみで、卵形から卵状楕円形、縁は多少とも上面へ巻き込み、長さ3-8cm、幅2-3cm、淡黄緑色。長さ5-10cmの花茎を1-3本出し、それぞれの頂端に花を1個つける。花冠は合弁で紫青色、筒部は細長い距となり、裂片部は唇状に開いて下部の裂片は大型になる。	
生態的特徴	湿った岩場に生育する。葉に粘液を分泌して昆虫を捕らえる食虫植物。花期は5月下旬から6月中旬。	
分布状況	三重県と岐阜県に分布し、岐阜県では県南の中部と西部に見られる。	
減少要因	山草愛好家による採取。	 <p>※生育地保全のため、広範囲の分布図を表示しています。</p>
保全対策	産地が特定できる分布情報の抑制と、採取の禁止。	
特記事項	高山帯に生育するムシトリスミレの変種である。	
参考文献		

文責: 高橋弘